

第2回 小布施町基本構想審議会 会議録

日 時： 令和元年10月23日（水）13:30～15:30

場 所： 小布施町役場2階 会議室

出席者名簿：

<委員>

氏 名	役職等	備考
小西 和実	小布施町議会総務産業常任委員長	
福島 浩洋	小布施町議会社会文教常任委員長	
牧 良一	J Aながの須高地区担当副組合長	欠席
桜井 昌季	小布施町商工会長	
大窪 経之	小布施町文化観光協会会長	
中嶋 聞多	信州大学 特任教授 地域活性学会会長	
田中 はる子	小布施町農業委員会会長	
高野 薫	小布施まちづくり委員会 副会長	
近藤 和美	小布施町保健福祉委員会会長	
黒岩 祐介	八十二銀行小布施支店長	
徳武 進	長野信用金庫小布施支店長	
飯田 幸仁	小布施町勤労者協議会長	
丸山 康熙	株式会社 Goolight 代表取締役社長	欠席
真野 毅	長野県立大学	
中條 雄三	小布施町民生児童委員協議会長	
鶴田 昭平	小布施町老人クラブ連合会長	
宮島 義人	新生病院 常務理事	
湯本 大樹	中学校 P T A 会長	
市村 憲彦	小布施町文化協会会長	
山崎 幸治	小布施町体育協会副会長	

<基本構想審議会 幹事><総合計画策定幹事会 幹事>

氏名	課名	職名
久保田 隆生		副町長
中島 聡		教育長
竹内 節夫	総務課	課長
中條 明則	財務課	課長
林 かおる	健康福祉課	課長
西原 周二	産業振興課	課長
畔上 敏春	建設水道課	課長
三輪 茂	教育委員会	次長
山崎 博雄	議会事務局	事務局長

<基本構想審議会 書記><総合計画策定幹事会 事務局員>

氏名	課・係名	職名
山岸 正男	総務課	政策幹
寺島 文彦	総務課・総務係	係長
宮川 伸幸	財務課・財政係	係長
涌井 典男	財務課・税務会計係	係長
荒井 政人	財務課・税務会計係	会計幹
須山 和幸	健康福祉課・福祉係	係長
永井 芳夫	健康福祉課・健康係	課長補佐
藤沢 憲一	健康福祉課・住民係	係長
原 茂	地域包括支援センター	所長
富岡 広記	産業振興課・商工振興係	課長補佐
湯浅 泰明	産業振興課・農業振興係	係長
鈴木 利一	建設水道課・上下水道係	係長
林 信廣	建設水道課・建設管理係	係長
芋川 享正	建設水道課・都市計画係	係長
宮崎 貴司	教育委員会・子ども支援係	係長
高野 伸一	教育委員会・生涯学習係	係長
八代 美千代	栗ガ丘幼稚園	園長
西澤 裕子	つすみ保育園	園長
市川 孝子	わかば保育園	園長

<事務担当>

氏名	課・係名	職名
須藤 彰人	企画政策課	課長
益満 崇博	企画政策課定住交流係	係長
湯浅 憲彦	企画政策課企画係	係長
町井 溪介	企画政策課企画係	主任
大宮 透		地方創生推進員
金岡 奈穂子	(株)計画情報研究所	主任研究員

1. 開 会

湯浅[事]： 第2回小布施町基本構想審議会を開催します。進行を務めさせていただきます、企画政策課企画係の湯浅と申します。よろしくお願いいたします。では、会長の桜井様より挨拶をお願いします。

2. 会長あいさつ

会 長： 皆さんこんにちは。19号の被害は小布施、近隣市町村含め、甚大でした。現在も復興作業が進められており、皆さんもお疲れのことと思います。今回の台風の影響は、今後の町のあり方の議論に大きく影響すると思います。これも含み、審議をどうぞよろしくお願いいたします。今回の会場は前回と違いまして皆さんとの距離が近くていいですね。審議が深まるような気がします。

湯浅[事]： ありがとうございます。続きまして、災害の状況について久保田副町長からご報告させていただきます。

3. 災害の現況について

久保田副町長： 災害の現況について説明

湯浅[事]： ありがとうございます。続きまして、審議に入ります。会長の進行でお願いします。

4. 審議

(1) 町民アンケート・人口動向分析について

会 長： では、1番の町民アンケートについて事務局より説明をお願いします。

須藤[事]： 町民アンケートの結果について説明

会 長： ありがとうございます。ご質問、ご意見などお願いします。

真 野： 町民アンケートの結果で、「自治会のつながりが強すぎる・希薄である」という相反する結果があったが、これは自治会別の集計を行っているか。

須藤[事]： 調べていない。

真 野： おそらく、自治会別で違いがあると思われるため、データを詳細に分析することで、自治会の特色などが出てくるし、参考になるのではないかと。

須藤[事]： ご指摘ありがとうございます。

福 島： 資料の1ページのアンケートの回収率について質問したい。先日、第7コミュニティの町政懇談会でも話があったが、1,000人にアンケートを配布したうち、20代、30代、40代が200枚で回答率が少ないが、若い人の回収率としてはおおむねよいという考えか、あるいは、今後見直しして調査する予定なのか。

須藤[事]： 実際の人口の年齢で配分すると高齢者の方への配布が多くなる。しかし、今回は、各年代から同じくらいの回収数を得、幅広い年代からのご意見を集めたいという意図があり、若い世代に多く配布した。アンケートの結果に加え、専門部会や町民ワークショップでいろいろな世代の方の意見も取り入れたいと考えている。アンケートは、再調査というより、この結果を受け止めたいと考えている。

小 西： 回収率が世代によって違うので、標準偏差を取るなどしてデータの補正を行っているのか。また、単身と家族で住んでいる人では、定住に関する意向が異なると思う。家族で住んでいる世帯を多く抽出するなどしているのか。

須藤[事]： 世代別についての偏りについてはご指摘のとおりである。7ページに世代別でどのような項目を重視しているかについても分析している。世代別の配布枚数と回収率が違うことを前提とし、アンケート結果を分析したい。また、町民の皆さんに町報などでお知らせさせていただくため、この際にもその前提を皆さんにしっかりとお伝えしたい。また、世帯の形態は、抽出の際には分けて行ってはいない。

近 藤： 「子育て世代」という結果があるが、何歳くらいを想定しているのか。

須藤[事]： 89ページにアンケートの調査票を載せている。対象は、「出産子育てを考えて

いる方」もしくは、「現在、0歳～高校生のお子さんをお持ちの方」としている。

大 窪： 5年前にPTA会長として参加させていただいた。その際に、1学年の人数が100人であるといいという話で合意した。その際の議論でも、町外で生まれて転入してくるという方が多いのではないかと、出生数が100人ではなく、転入を期待し、小学校1年生になるまでに100人いるといいということ話を話した。このため、次男や三男など、町外に出た方にもう一度戻って来てもらうことが重要である。そのための優遇施策などを、今後実施していただければ、益々人口が増えるのではないかと。

会 長： 2ページ目について、「管理されていない空き家や空き地が目立つ」という意見があった。実際は、他の市町村に比べると小布施町は耕作放棄地が少ないという話も聞いている。また、75ページの自由回答には、「水がおいしくない」という意見もあった。私は若い時いろいろなところに住んだ経験があり、小布施は水がおいしいと思っている。意識と現実の乖離がある。この点をどう説明するかについて事務局はどう考えているか。

大宮[事]： ご指摘のとおりである。空き家は須坂市や中野市と比較しても戸数は少ないのではないかとと思われる。しかし、10年以上住んでいらっしゃる方にとっては、空き家が1軒でもあれば、空き家が増えてきたなという感覚になり、不安につながるのではないかとと思われる。空き家は数字の比較ではなく、あるかないかという点で対応が必要となるのではないかとと思う。水に関してはいろいろな指標があり、難しい。個人の主観もある。しかし、このような意見に対して、行政はこう思っているという回答を丁寧に発信することが必要だと考えている。

会 長： 「雇用の場が少ない」という課題がある。雇用の問題と小布施町の住みやすさは直結していないと思う。小布施に住んで、近隣市町に働きに行けばよいということも言える。雇用と住みやすさを直結させると議論が迷走するのではないかと懸念を持った。

小 西： この戦略全体としてどういった人をターゲットとするかが重要である。ターゲットとしては、「定住している方」と「これから住むであろう方」とと思われる。2ページ目に、居住年数が9年未満の人は地価が高いことを問題点の一つとして感じていると記載されているが、仕事の都合でたまたま小布施に一定期間住んでいるという人は主たるターゲットではないということを確認したい。今後の部会や町民ワークショップなどでも話し合いいただければと思う。地価が高いということは、小布施のブランド一つでもある。

(2) 役場内ヒアリング・専門部会について

会 長： それでは、役場内ヒアリング、専門部会について資料説明をお願いしたい。

大宮[事]： 役場内ヒアリング・専門部会の資料（１）、（２）について説明

会 長： ありがとうございます。ご質問、ご意見などお願いします。

真 野： 特定健診の受診率について意見したい。実際には健康づくりに取り組んでいる人がどれだけ増えたかが重要である。受診率が高くなっても健康づくりに取り組んでいる人が少なければ意味がない数字である。豊岡市では健康づくりでは、企業対抗のウォーキングで歩数を競ったり、地域で自主的な健康づくりの取組を行ったりしている。1年ごとに総合的な達成度についてのアンケート調査を実施し、実際に健康づくりに取り組んでいる人が増えているかを確認するという作業をしていた。受診率などの数値を目標設定しがちであるが、それそのものに効果があるのかも含めて検討する必要があるのではないかと感じた。

会 長： ありがとうございます。今回の災害で、ボランティアを派遣する際に、「家の片付けに来て」と言えないというお宅が結構あった。生活基盤がおびやかされているのに、「ボランティアに来て」と言えない人がいるのだということに気づいた。このような取組については、「やっているよ」「来てよ」と言ってもなかなか来てもらえるものでもない。端から見て楽しそうであることが大事であると感じた。

高 野： 地域の支え合いマップは個人情報に掲載されている。例えば、まつぼっくりで地域の支え合いを考えるといった際に、どのように地域で支え合ったらよいかかわからないと感じた。例えば今回のような災害があった際に、一人暮らしの人が隣や近くに住んでいる自分に何ができるのだろうと感じた。民生委員の活動と地域の支え合いマップのような活動の役割をどう繋げればよいかの検討が必要ではないかと感じた。

大宮[事]： まつぼっくりの活動を進めていく中で、地域の支え合いマップが意外と役に立たなかったということがわかったということか。

高 野： まだそこまでもわかっていない状況である。さきほど、地域の関係性が希薄になっているという指摘があったが、支え合うためには組織だった何かが必要ではないかと感じた。

中 條： まつぼっくりという組織は、災害時に機能することを主な目的としているわけではないのではないか。私は千両に住んでいる。地域の支え合いマップは最初のうちは機能しなかったが、いろいろな方が組長を3年か4年に1度経験すると、マップについての理解が進み、機能してきたと感じている。今回の台風の避難指示が始めに出た対象地域は、栗ガ丘、飯田、大島で千両は入っていなかった。しかし、千両は松川沿いで栗ガ丘と接しており、千両の堤防に近くに住んでいる人は、大きな石が流れてきて怖い。一人暮らしの人の家の隣の人が組長であった。このため、自治会長が隣組の組長に話をし、一人暮らしの方と千年樹に避難したそうである。はじめの2、3年くらいは、地域の支え合いマップを自治会単位でできるだけ多くの人が集まる時に更新していた。しかし、途中から防災訓練の場を利用してコミュニティ単位で更新するようになった。そうすると、情報更新が徹底しなくなる。そこで、去年一昨年から連合会長に話をし、今年は防災訓練でない時に情報を更新した。このように、情報更新の方法が重要だと感じている。脳のリフレッシュ教室は、参加者が減ってきている。参加者の間で人間関係の好き嫌いがあることも原因のように感じる。しかし、世話をするリーダーの人が広く声をかける方だと、参加者数も多くなる。リーダーを養成することも必要ではないかと感じる。

真 野： 豊岡市では防災訓練の際に、地区ごとに参加率を算出している。防災意識の高い人たちが集まった際にどう防災意識を高めたらいいかと話をしている。その際、若い人が参加してくれていないという課題があった。この対応として、夏休みの最後に全市一斉に防災訓練を実施すると参加率が急激に上がった。現在の参加率の把握が必要である。また、防災訓練に参加すると防災意識は高くなるので、参加比率を上げることは有効である。若い人の参加を高めるためには、開催時期の工夫なども参考となるだろう。

大宮[事]： 役場内ヒアリング・専門部会の資料（3）、（4）、（5）について説明

真 野： 小布施町では、「9割の町民が住みやすさを実感し、シビックプライドを持って暮らしている」、また、「4～14歳の人口が増加」しており、なかなかこのような町はないと思われる。このような町そのものを売り込んでいくということが重要だと感じている。インターネットを通じて農産物を販売するなどの取組は行っているか。

大宮[事]： ふるさと納税は、新規就農の方で組織している「小布施ファーマーズ」というグループの農産物を中心に返礼品としている。町独自のオンラインショップはなく、一つの課題である。

真 野： 社会背景としてテレワークや副業が推進されてきている。小布施のブランドを活かしたインターネットの販売による産業の振興が必要だと感じた。

田 中： 空き家対策について質問である。周辺の長野市や須坂、飯山市では空き家に、1アールや2アールの農地を付けて借主や買い手を募集していると聞いている。小布施町でもそのような取組を行っているか。

益満[事]： 移住定住を進めており、所有者の方の承諾を得て、空き家バンクへの登録を行っている。現在、6軒の募集があり、うち1軒に畑があるお宅の登録がある。

田 中： 今回の台風19号で浸水被害にあった方で、自分の農地が浸水被害の少ない場所にある際、その農地に家を建て直したいという意見を聞く、しかし、農業振興用地の場合、宅地にすることが難しいと聞いている。町としてそのような農地を宅地とすることは可能か。

久保田副町長： 農業振興地域における住宅の建設は一定の条件のもとでなければ難しい。将来的に農業振興整備計画を見直す際に市外化区域や農業振興地域の見直しを行っていった場合には可能になることもあるが、現時点では難しい。

福 島： 今回の台風19号のような大災害の発生頻度が上がってくることも懸念される。大きな調整池みたいなものを整備することも考える必要があるのではないか。鶴見川には1億トンの遊水池があるそうである。松川は、12日から13日にかけて雷が鳴っているような川の流れであった。松川が氾濫すると小布施町全体が浸水することが懸念される。対策が必要ではないか。

会 長： 今回の災害を受けた対応は国や県単位で出されることだろう。毎年災害の懸念があるということをご指摘のとおりだと思う。

小 西： 行財政改革についてであるが、財政調整基金が少ないということは懸念される。債務を減らしつつ、調整基金を蓄えるということも必要だと感じる。

中 嶋： いただいた資料は、役場で取り組まれていることもわかり、わかりやすかった。今回、総合計画と総合戦略を見直すということで、お伺いしたい。国が示す第2期の「まち・ひと・しごと創生 総合戦略・人口ビジョン」は基本方針が提示されている。その中で第1期との違いは、「関係人口」と「人材育成」が強調されている点だと思う。特に総合戦略という意味で、小布施町は、これまで独自のまちづくりに取り組んでいるわけであり、「関係人口」についてどのように定義し、どのように取り組んでいるか、今後どうすべきかについて盛り込む必要があるのではない

か。小布施町は、「関係人口」についての取組実績はかなり蓄積があると思うが、数値となるとどう整理をするか。定義次第であると思うが、気になっている。総合戦略を取りまとめるに際し、せっかくの機会であるので、役場としての考えをお聞かせいただければと思う。

須藤[事]： ご指摘のとおり、国では、「定住人口」と「観光人口」の間にある、「関係人口」を増やしていこうという方針にある。何かしら盛り込む方向で盛り込んでいきたい。

中 嶋： 「関係人口」に実績のある小布施町としてどう定義し、それを伸ばすのか、あるいは、定住に力点を置いていくのかなどについてここで議論し、総合戦略に盛り込むべきだろうと感じている。

大宮[事]： 今回の災害が発生し、関係人口の重要性と小布施にとっていかに宝であるかということを実感した。小布施町では現在、災害寄付のふるさと納税に 500 万円近い寄付をいただいている。その応援メッセージの中に、「毎年、見にマラソンに参加して街並みが大好きです」「若者会議に出て人生が変わりました」など小布施が大好きである方からのコメントがある。まさに関係人口にある方からの支援である。このようなことが評価をする上でのヒントになるのではないかと感じている。

会 長： まだまだご意見もあるかと思うが、時間であるので、これで審議を終えたい。3 回目はどのような形となるのか。

大宮[事]： 専門部会について資料説明

須藤[事]： 年内、専門部会と町民ワークショップを開催し、1月に戦略の形としてとりまとめる。第3回の審議会は、1月下旬に予定をしており、皆様にご審議いただき、第4回を2月下旬に予定している。

湯浅[事]： 長時間にわたりご意見いただき、ありがとうございます。皆様のお手元に前回の会議録があります。訂正がなければ、ホームページに掲載させていただきたいと考えております。また、今回の会議録についても皆さんにご確認の上、掲載させていただきたいと思っております。以上をもちまして、第2回小布施町基本構想審議会を閉会させていただきます。ありがとうございます。

以上